

「ICTの活用について」

北海道高等学校教育研究会地歴・公民部会長 渋川 誠人
(北海道札幌北陵高等学校長)

GIGA スクール構想がこのコロナ禍で前倒しされ、2020 年度内にすべての公立小中学校の生徒に一人一台の端末が配布されることになった。公立学校へのオンライン授業の導入により、授業プリントや各種お知らせなど紙媒体から ICT を介した配布へと加速することが考えられる。近い将来国の調査や試験などは CBT 化され、生徒は鉛筆やノートではなく情報端末で学ぶことになると予想されている。電子黒板へと変わるのもそう遠くない。ICT を活用した取り組みは、会えない人と繋がったり、対話し協働する活動を促し、刺激や知恵をくれる同世代へと繋がる。その繋がりは、ひいては地域、社会、そして世界とつながることもでき、オンライン教育は多くのチャンスや可能性をもたらしてくれる。また、語彙や用語の習得、外国語や数学の学習は、理解の早い生徒がどんどん学びを進めたり、過去に学んだ単元の理解が十分でない生徒はいつでも振り返り学習を行えるなど、個人の理解状況に応じた個別性の高い学習を行うことが可能になる。そうになると、地歴・公民の多肢選択問題に対応すべく知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用のみを目的とする学習は、AI 教材や予備校の一流講師による授業動画に代替されることになると言われている。

学校の役割は知識の習得にとどまらず、習得した知識や思考を活かして、よりよく生きる・よりよい社会にするための教育実践を重ねることにある。だからこそ、教師は生徒の学ぼうとする意欲を引き出し、ICT を活用して単元の内容をより構造的・立体的に理解できるような授業を行ったり、学び合いや教え合いでクラス全体の知識の理解の質を高めたり、討論や対話、協働を引き出したりという教師しか出来ないこの役割をしっかり果たす必要がある。教師のメインは、あくまでも授業であるということをもう一度見つけ直し原点に立つことが必要だ。AI や予備校の一流講師の真似をしても意味が無い。

また、これからの社会は従来の社会構造の中で行われてきた「正解主義」や「同調圧力」から脱却することが大切だそうだ。高等学校学習指導要領が高校教育に求めているのは、前文にある「持続可能な社会の担い手を育む」ことであり、同調圧力の中で付和雷同したり他人任せで考えたりすることを止めたりするのではなく、自分の足で立ち自分の頭で考え、他者と対話することの大事さを共有できる学びを創り出すことである。そのためには「一斉授業」か「個別学習」か、遠隔・オンラインか対面・オフラインかというような二項対立の発想を脱して、生徒の状況に応じて適切に組み合わせ活かすハイブリッド教育を行い、より個別最適な学びと社会につながる協働的な学びを実現することが求められる。学校は、学校の「当たり前」を大きく問い直しリデザインする必要がある。指導案・評価（中間考査や期末考査の廃止）・校則……。これからは二項対立の発想から脱して、今までの当たり前を素直に見直してみたい。

●令和3年度(2021年度)高教研地歴・公民部会役員一覽

役 職		氏 名	学 校 名
部 会 長		渋 川 誠 人	札 幌 北 陵 高 校
副 部 会 長		田 尻 勝 敏	札 幌 東 高 校
		林 正 憲	札 幌 北 高 校
		廣 川 雅 之	市 立 札 幌 大 通 高 校
監 事		小 林 孝	石 狩 南 高 校
		高 橋 昌 宏	有 朋 高 校
運 営 委 員	世 界 史	榊 原 康 文	市 立 札 幌 大 通 高 校
		菊 池 真 哉	札 幌 英 藍 高 校
	日 本 史	岩 間 洋 之	札 幌 啓 成 高 校
		安 藝 宏 和	札 幌 北 陵 高 校
	地 理	鈴 木 良 伸	札 幌 月 寒 高 校
		三 浦 徹	札 幌 東 豊 高 校
	現 代 社 会	吉 川 敦 巳	札 幌 東 高 校
		横 平 麻 紀 子	札 幌 英 藍 高 校
	倫 理	渡 邊 昭 博	札 幌 手 稻 高 校
		倉 部 英 利 子	大 麻 高 校
	政 治 経 済	佐 竹 肇	札 幌 平 岡 高 校
		藤 倉 水 緑	市 立 札 幌 清 田 高 校
事 務 局	局 長	小 原 茂	札 幌 北 陵 高 校
	次 長	安 藝 宏 和	
	局 員	山 下 良 二	
		吉 川 伸 彦	
		福 澤 雄 一 郎	
		能 戸 睦 傑	
		本 間 靖 章	
		半 藤 幸 広	
		事 務 長	

●令和3年度高教研地歴・公民部会（教科別集会）のご案内

1 地歴・公民部会 研究主題について

(1) 令和3年度地歴・公民部会研究主題

「広い視野に立ち、主体的に生きる資質・能力を育む学習指導の工夫・改善」

(2) 令和3年度専門部(分科会)研究主題

- ア 世界史：自ら課題を見出し、主体的に取り組む力を育てる学習指導の工夫・改善
- イ 日本史：日本史教育の今日的課題と、深い学びへと結びつく学習指導と評価の工夫・改善
- ウ 地理：新教育課程における地理教育の創造と、授業実践を通じた学習指導の工夫・改善
- エ 現代社会：「現代社会」の授業実践の成果と課題を踏まえて、新科目「公共」を構想する
- オ 倫理：他者と共によりよい社会の形成を担う人間を育てる倫理の授業展開
- カ 政治経済：公民としての資質・能力を育成する「政治・経済」学習指導の工夫・改善

2 期 日 令和4年1月13日（木）

3 会 場 かでる2.7（道民活動振興センター）
☎060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 TEL 011-204-5100

4 内 容（時間帯は予定）

9:00	9:30	10:20	10:30	12:30	13:30	15:30	15:50
受付	開会式 総会 各研究会紹介 【ホール】	休憩	講演 (分科会ごと) 【会場は当日案内】	昼食	研究発表・協議 (分科会ごと) 【会場は当日案内】		閉会式

5 講演・研究発表・司会・記録の依頼 分科会運営委員が依頼します。ご協力をお願いします。

6 交通機関

- (1) JR 札幌駅南口：徒歩 13 分
- (2) 地下鉄 さっぽろ駅（10 番出口）徒歩 9 分
大通駅（2 番出口）徒歩 11 分
西 11 丁目駅（4 番出口）徒歩 11 分
- (3) JR バス北 1 条西 7 丁目（停留所）徒歩 4 分
- (4) 中央バス北 1 条西 7 丁目（停留所）徒歩 4 分

7 研究紀要について

研究紀要は、第 58 号と第 59 号の合冊となります。

ア 教科に関することで、24,000 字以内(24 文字×1,000 行)です。

イ 申込みは、令和 3 年 8 月 20 日（金）までに事務局（札幌北陵高校）へ論文概要を送付してください。

8 その他

新型コロナウイルス感染症の状況により、全体会がリモート配信となった場合は、オンラインで教科別集会の実施を検討します。

●令和3年度地歴・公民科 各種研究会のご案内

～互いに学び、情報交換して、夏に教科指導力を高めましょう！～

研究会名称	北海道高等学校世界史研究会			
会長名	橋本達也(北海道科学大学高等学校長)	事務局長	本間靖章	
事務局	北海道札幌北陵高等学校	札幌市北区屯田7条8丁目1-5	TEL 011-772-3051	
研究会のご案内	期日	令和3年8月6日(金)	会場	オンライン(Zoom)
			参加料	無料
	第52回北海道高等学校世界史研究大会			
	<p>○主 題 「生徒とともに語る世界史へ」</p> <p>○参加費 無料(500名まで 事前の申し込み必要)</p> <p>○日 程 8月6日(金)</p> <p>12:45~13:00 総会</p> <p>13:00~13:10 開会式</p> <p>13:10~14:40 講演 テーマ「グローバル・ヒストリーのなかのオランダ東インド会社」 講師：島田 竜登氏(東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授) 司会：吉嶺 茂樹氏(北海道有朋高等学校)</p> <p>14:55~15:55 総合討論 テーマ「教科書作成者と語る歴史総合」 パネリスト：島田 竜登(東京大学 山川出版社：執筆) 吉嶺 茂樹(北海道有朋高等学校 東京書籍：編集・校閲) 本間 靖章(北海道札幌北陵高等学校 帝国書院 編集・校閲)</p> <p>15:55~16:00 閉会式</p> <p>○申込み https://forms.gle/vbvR8fKtzy3i9bcZA 研究大会への申し込みは7月30日(金)までとさせていただきます。なお、定員を満した場合には、その時点で受付を締め切らせていただきますので、ご了承ください。 ※北海道スクールネットの通常回線だと、フィルタにかかってしまいます。制限のない回線ないしは、スマートフォン等でお申し込み下さい。</p>			

研究会名称	北海道高等学校日本史研究会			
会長名	山崎 誠(北海道遠軽高等学校長)	事務局長	幡本将典	
事務局	市立札幌開成中等教育学校	札幌市東区北22条東21丁目1-1	TEL 011-788-6987	
研究会のご案内	期日	令和3年8月5日(木)	会場	オンライン(Zoom)
			参加料	無料
	第44回北海道高等学校日本史研究大会			
	<p>○日 程 8月5日(木)</p> <p>9:30~ Zoom 会議室 入室開始</p> <p>9:50~ 開会の挨拶</p> <p>10:00~12:00 講演Ⅰ 演題「近現代日本における建国神話の社会史」(仮) 講師 古川 隆久氏(日本大学文理学部教授)</p> <p>13:00~15:00 講演Ⅱ 演題「戦後補償をめぐる問題について」 講師 本庄 十喜氏(北海道教育大学札幌校准教授)</p> <p>○参加費 無料(100名になり次第締め切り、締切日7月30日(金))</p> <p>○申込先 札幌日本大学高等学校 見山 智宣 アドレス: tomonori.miyama@sapporonichidai.ed.jp 「日本史研 ZOOM 開催に参加希望」と書いて、①所属 ②氏名を記載</p>			

研究会名称	北海道高等学校地理教育研究会			
会長名	阿部 穰（北海道留萌高等学校長）	事務局長	佐久間 直 樹	
事務局	市立札幌新川高等学校	札幌市北区新川5条14丁目1-1	TEL 011-761-6111	
研究会の ご案内	期 日	令和3年8月1日（日）	会 場	オンライン（Zoom）
			参加料	無料
	第49回 北海道高等学校地理教育研究会 オンライン大会			
	○日 程			
	8月1日（日）			
	12:30～	受付 会議室入室		
	13:00～	開会式		
	13:10～14:10	講演Ⅰ	演題「地理総合の授業の在り方」（仮）	
		講師	高木 優 氏（神戸大学附属中等教育学校教諭）	
	14:20～14:50	講演Ⅱ	演題「GISを活用した授業の姿」	
		講師	石川 泰正 氏（東京カートグラフィック(株)企画営業課）	
	○参加費 無料、当日、下記のミーティングID、パスコードにてご参加ください。			
	https://zoom.us/j/95996722181?pwd=ZkdrRHV6YjNrSnNTV0VFQzVo0Ephdz09			
	※ こちらのURLにアクセスすると御参加いただけます。			
	ミーティングID: 959 9672 2181			
	パスコード: 0722			
	○問合せ 市立札幌新川高等学校 佐久間 直樹			

研究会名称	北海道高等学校政治経済研究会			
会長名	新山 知 邦（北海道室蘭栄高等学校長）	事務局長	下 川 欣 哉	
事務局	北海道札幌国際情報高等学校	札幌市北区新川717-1	TEL 011-765-2021	
研究会の ご案内	期 日	令和3年11月4・5日（木・金）	会 場	オンライン（Zoom）
			参加料	2,000円
	令和3年度全国公民科・社会科教育研究会全国研究大会（北海道大会）			
	○日 程 令和3年11月4・5日（木・金）9:00～16:30			
	○定 員 最大50名（申込多数の場合は先着順）			
	11月4日（木）			
	9:00～	Zoom 接続		
	9:30～10:00	開会式		
	10:10～12:10	記念公演	演題「令和の時代の公民科教育に期待すること ～子どもたちの幸せな人生のために～」	
		講師	佐藤 優 氏（作家）	
	13:10～14:40	全体会（公共）		
	14:50～16:20	分科会（政治経済・倫理）		
	16:20～16:30	諸連絡		
	11月5日（金）			
	9:00～	Zoom 接続		
	9:30～10:30	全体発表	演題「主体的・対話的で深い学びの公民科授業実践について」	
		講師	畠山 創 氏（代々木ゼミナール公民科講師）	
	10:40～11:40	教科調査官講話①（政治経済・公共）		
	12:40～13:40	教科調査官講話②（倫理）		
	13:50～15:50	シンポジウム		
	16:00～16:20	分科会全体報告		
	16:20～16:30	閉会式		
	○参加費 2,000円 資料費 2,000円			

○申込み Google フォームによる申込み <https://forms.gle/4xuZ5tfmdxvy17SC8>
 申込期間 8月2日(月)～10月1日(金) 締切

○問合せ 全国研究大会北海道大会(全般)
 佐藤 豊記(北海道高等学校遠隔授業配信センター教諭)
 〒002-8504 札幌市北区屯田9条7丁目
 TEL 011-773-8230 FAX 011-773-8300
 E-mail: toyokitoyokinakama@gmail.com

全国研究大会北海道大会(申込)
 志田 光瑞(北海道札幌稲雲高等学校教諭)
 〒006-0026 札幌市手稲区手稲本町6条4丁目1-1
 TEL 011-684-0034 FAX 011-684-0040
 E-mail: do_seiken@yahoo.co.jp

※詳細については、案内及びHPを参照ください。

研究会名称	北海道高等学校倫理・現代社会研究会			
会長名	元紺谷 尊 広(北海道有朋高等学校長)	事務局長	佐藤 克 宣	
事務局	北海道札幌南高等学校	札幌市中央区南18条西6丁目1-1	TEL 011-521-2311	
研究会の ご案内	期 日	令和3年8月10日(火)	会 場	オンライン (Zoom)
			参加料	無料
	2021年度北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会(第55回総会並びに研究大会)			
	○主 題 『倫理』および『公共』におけるこれからの授業のあり方 新科目『公共』における「公共の扉」の単元の授業実践や新学習指導要領における学習評価の実践など、これからの公民科の授業のあり方について考える。			
	講演テーマ「新しい公民科の扉を開く」 講師 飯塚 秀彦 氏 (国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官)			
	○日 程 令和3年8月10日(火) 13:00～16:15			
	12:45～ 接続受付開始			
	13:00～ 開会式、会長挨拶、講演者紹介			
	13:15～14:45 飯塚教育課程調査官による講演			
	14:55～15:25 質問内容への回答			
15:25～15:35 閉会式、会長挨拶				
15:35～15:40 事務局からの連絡				
15:45～16:15 総会				
○参加費 無料(100名以上の参加があった場合は先着順、締切日7月23日(金))				
○申込先 北海道札幌南高等学校 佐藤 克宣 アドレス: rinri02@dorinken2020.page ①名前 ②所属 ③オンライン参加用メールアドレスを記載し送信				